

私は、口の慣用句について調べました。なぜ、口の慣用句について調べたかというと、私は常にしゃべり、自分でいうのもあれなのですが、私がかしゃべることで笑いが取れたり、みんなが笑ってくれるからです。

一番最初に「これだ!」と思ったのが、「口から先に生まれる」です。「口から先に生まれる」とは、おしゃべりなことです。まさに自分にびったりな言葉だと、意味を見て思いました。私は、しゃべり出すと止まらなくなり、たまに注意されてもしゃべり続けることがあります。でも、まだ学校では静かな方です。なぜかというと、私以上におしゃべりで私以上に笑いが取れる敵がいるからです。誰かは想像にお任せします。でも、成績が下がるからしゃべらないということも一理あります。

しかし、さすがの私でもしゃべりすぎると話題が尽きてしまうこともしばしば。だから、同じ事を何度も繰り返すので、その時は話題がなくなっただなと思ってください。

そして、私がこのスピーチで、と

ても伝えたいことを今から話します。みんなは、「口は災いの門」を聞いたことがあると思います。「口は災いの門」とは、軽はずみな言葉から災難を招くことがあるから、言葉には気をつけようという意味です。私は一度、家族でショッピングに行き、帰るときに何かにいらついで親に反抗的な態度をとり、「ちょっとどっかに行くわ」と言っって親と別々の行動をしていて、自分の用事が済んで親に連絡をしたけれど通じなかったので、駐車場に行ったら車がありませんでした。私は一人でショッピングモールで二時間も放置されていました。つまり、親には敬語を使い、親を不機嫌にしない方がいいと言いたかったのです。

身近な生活の中には、慣用句の意味につながる行動をしている人がいるのだと思います。だから、私のように、生活を振り返り、どんな行動が慣用句とつながるか考えてはどうでしょうか。

ご清聴ありがとうございました。

